

第7回 ふかまるつながる 宇治久世 在宅事例検討会

日時：場所：2015年8月8日（土）午後2時から5時まで

場所：宇治徳洲会病院 10階 講義室

司会：村山 祐一郎さん

日頃は医療と介護の連携活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

ご存知のように宇治久世医師会は2014年から「看取り委員会」（多職種協働）を作り、「地域で看取る体制づくり」をテーマに講演会や研修会を行い、昨年度から特養など施設看取りを支援する事業をしています。

この事業では、当地域での医療施設以外での看取りが進まない理由を探りながら、『最期まで本人の意思を尊重した暮らしを継続すること』が大切という看取り理念を共有するための「連携づくり」「体制づくり」の地ならしをしているところです。

今回のふかまるつながる在宅事例検討会はこの問題の核とも言える、施設高齢者の終末期医療の問題について、最近プレゼンターが経験された●堀●子さんの症例をディスカッションしたいと思います。

1. プレゼンテーション1 「特養からの救急患者を診る」 (10分以内)

宇治徳洲会病院 救命救急センター 城 嵩晶 医師

2. プレゼンテーション2 「特養の高齢者の急変・救急受診」 (10分以内)

宇治明星園特別養護老人ホーム 野村 広之 生活相談員

3. グループワーク

事前学習がなくてもこの検討会に出るだけで在宅の現状が見えてきます。参加者みんなが事例検討会の全体のクオリティを支えていく取り組みです。あたかも在宅現場で医療と介護のスタッフみんなが患者さんを支えるように。

したがって、この検討会は在宅に関わるすべての方に開放されています。是非皆さんもグループワークに参加してください。そして事前学習がなくてもこの検討会に出るだけで在宅療養の一步先が見えてきます。前進することができます。

主催：宇治久世医師会・宇治徳洲会病院・第二岡本総合病院